

こたえ とら い 虎の威を借るきつね

とら い 虎の威を借るきつね (中国の古い話)

ある日、森の中で、とらが一ぴきのきつねをつかまえました。
とらがきつねを食べようとすると、きつねは、あわてて言いました。
「待ちなさい。わたしは、天の神様から、すべてのけものの王に命じられているのだ。
わたしを食べたら、神様にさからうことになるぞ。うそだと思うなら、わたしの後ろに
ついて来てごらん。けものたちが、わたしを見て、にげ出すかどうか。」
とらは、半信半疑で、きつねの後ろについて歩き始めました。
すると、たしかに、きつねの前に出てきた動物たちは、みな、あわててにげていきま
した。とらは、「なるほど、きつねは本当にけものの王なのだ。」と思いこんでしまいま
した。
けれども、動物たちがにげ出したのは、きつねをおそれたからではありません。きつ
ねの後ろにいる、とらをおそれたからだだったのです。
この話から、強い者の力をたよりにして、いばることを、「虎の威を借るきつね」とい
うようになりました。「威」とは、人をおそれさせる力のことです。

1 きつねは、自分のことを、何に命じられていると言いましたか。
すべてのけものの 王

2 動物たちがにげ出したのは、本当は何をおそれたからですか。
ア きつね
イ きつねの後ろにいるとら
ウ 天の神様

3 とらは、動物たちがにげるのを見て、どう思いましたか。
ア きつねは本当にけものの王なのだと思った。
イ きつねにだまされたと思った。
ウ 自分がこわがられていると思った。

4 「虎の威を借るきつね」の意味に合うものに、○をつけましょう。
ア 強い者の力をたよりにして、いばること
イ かしこく生きること
ウ 強い者にしたがうこと